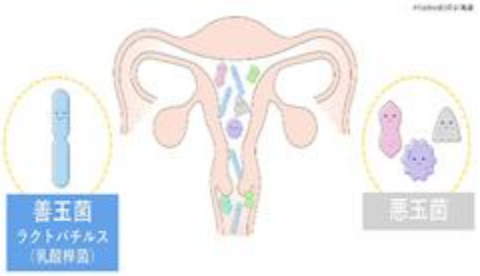
子宮内フローラ検査(子宮内細菌叢検査 2)に関する説明書

【子宮内フローラ検査について】

子宮内フローラ検査とは、着床、妊娠の成功率、また妊娠後の流産、早産と深く関わっている子宮内または膣内に存在する善玉菌・ラクトバチルス属菌の割合を調べる検査です。子宮内には様々な細菌が存在しますが、乳酸菌の一種であるラクトバチルスの割合が多い状態が、妊娠に対して良い子宮環境とされています。

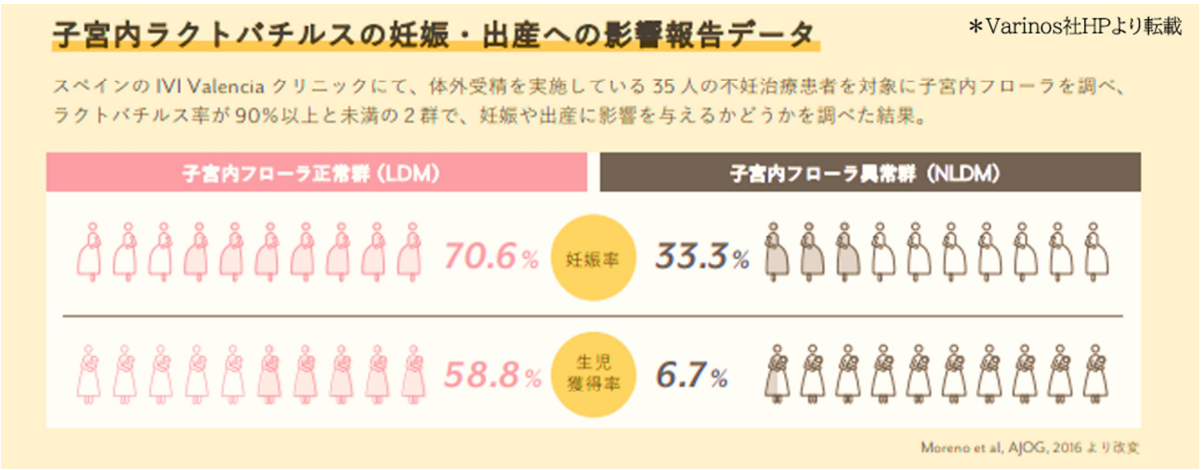
検査の目的

昨今の研究で、子宮内の環境(子宮内フローラ)が乱れているかどうかが、妊娠、出産に影響があることがわかってきました。子宮内環境におけるラクトバチルスの割合を調べ、検査結果を基に子宮内環境の改善を目指します。それによって着床に適した子宮内の環境を作り、妊娠率の上昇が見込まれます。



生殖器内に存在するラクトバチルスの妊娠・出産への影響について

乳酸菌の一種である善玉菌のラクトバチルスは、膣や子宮内で糖を分解し乳酸を産生し、生殖器内を酸性に保ち、悪玉菌の増殖を抑える働きをします。悪玉菌が多く存在する生殖器内は炎症が起きている可能性があり、炎症によって免疫細胞が活発になり、受精卵を異物として攻撃、排除するように働きます。ラクトバチルスは悪玉菌の増殖を抑え、悪玉菌が起こす炎症を抑えることにより、免疫細胞の攻撃を弱める働きをします。この検査では、子宮内環境を調べることで、ラクトバチルスの割合を知ることが出来ます。



検査により期待されること

子宮内の環境が把握できるので、不妊治療を受けている方や、妊娠を考えている方にとって、不妊症の原因解明や胚移植の判断材料にもなり、着床率や妊娠率の向上が期待されます。従来の検査では、判断がつかなかった原因がみつかる可能性があり、より適切な治療が行えるようになります。

また、妊娠後の流産・早産の原因ともなる感染症の有無も調べることが出来、その予防も期待されます。

【検査対象について】

・不妊症（卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効、かつ、これまで反復して着床又は妊娠に至っていない方）
・慢性子宮内膜炎が疑われる方、又は難治性細菌性膣症の方

【検査の実際について】

検査時期について

黄体期が最適とされていますが、月経期間と月経後3日間以外でしたらいつでも検査可能です。
検査日につきましては担当医とご相談ください。

検査方法について

専用の細胞採取器具を用いて子宮内腔液を採取します。採取時間は 1～2 分程度です。採取後は、その中に含まれる細菌の DNA を検査会社が専門の検査装置で分析してラクトバチルス属菌の割合を判定します。検査結果は約 3 週間で返却されます。

検査により起こり得る症状等について

・細胞採取の際の出血や痛み、子宮穿孔、子宮内感染の可能性　など

【検査費用について】

子宮内フローラ検査（子宮内細菌叢検査 2）： 43,000 円
＊子宮内フローラ検査（子宮内細菌叢検査 2）は先進医療のため、自費診療となります。

【検査についての注意事項】

前日の性交渉がラクトバチルスの占有率に影響を与える可能性は低いと考えられています。このため、検査を実施する周期は、性交渉を行っても問題ありません。ただし、妊娠の可能性がある時期は検査ができませんので、排卵後に検査を予定される場合は妊娠している可能性がないようにその周期は避妊していただくことを推奨いたします。

・検査当日はシャワー浴のみ可能です。入浴や性交渉は控えてください。
・検査後少量出血することがありますので、ナプキンをご用意ください。
・子宮内腔液の採取が難しく、検体量が不足となった場合または3か月以内の抗菌薬の使用等により正確な検査結果が得られず、再検査を要する場合があります。

【検査が出来ない方】

・妊娠中　・子宮内感染症　・膣炎　・骨盤内炎症性疾患　・血液凝固異常（バイアスピリン、抗凝固剤等内服中の方も含む）
・検査時に不正出血がある場合　など
※医師が検査困難と判断した場合、検査中止となることもございます。ご了承ください。

【検査結果について】

検査結果の報告には約3週間を要します。結果が悪かった場合、抗菌薬、乳酸菌やラクトフェリンなどのサプリメントの摂取や生活習慣の改善などを行うことで改善が期待されます。結果をもとに担当医と今後の治療方針をご相談ください。